

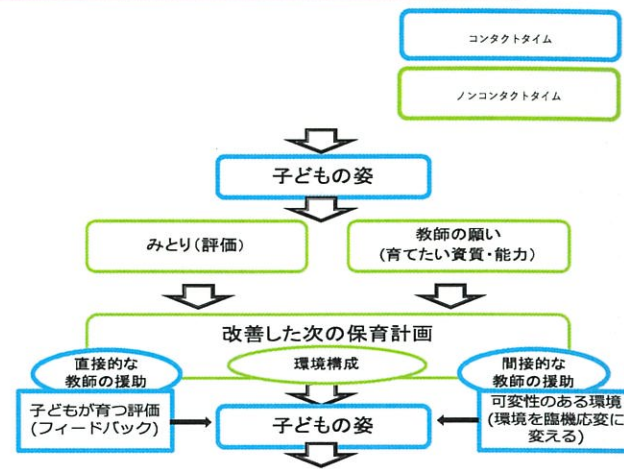
「子どもスタートの教育」をデザインする

主体的に身近な環境と関わり、
豊かな感性で自らの課題を解決していこうとする子どもと創造する保育

1 「子どもスタートの教育」とは

持続可能な社会のための目標である SDGs を支えるのは、その哲学です。我々保育者は、社会の創り手となる子ども達と共に、いつでもどこでも、誰もが、みんな当事者になり、自分の生き方を問い直すことが、SDGs のアジェンダへの行動につながると考えます。

そのために当園では、子どもと協働して創造する保育として、目の前の子どもが「何を楽しんでいるのか」「何故その行動を起こすのか」、子どもの姿から始まる子どもスタートのカリキュラムマネジメントを実施しています。

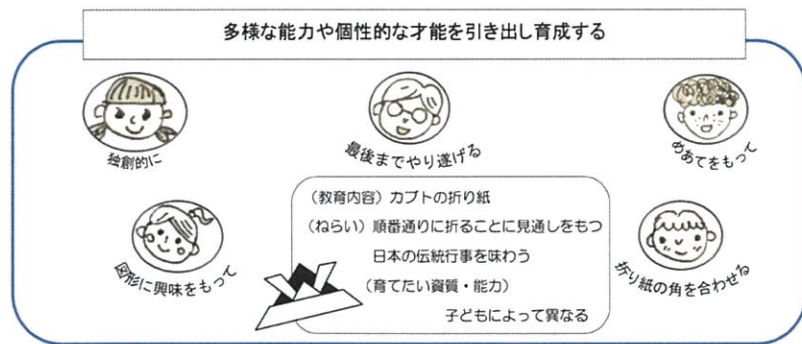


2 子どもの多様な能力や個性的な才能を引き出すカリキュラム

子どもの育ちの過程は子どもそれぞれであり、教師の指導の手立ても子どもによって異なります。子ども一人一人がもつ資質・能力がそれぞれ異なるのと同じように、同じ活動で同じ能力は育たないし、育てる必要もないのです。

そのためには、一人一人の子どもの多様な能力や個性的な才能を教師がみとり、「育てたい資質・能力」のビジョンをもつことがとても重要になってくるでしょう。

異なる価値観や意見をもつ友達だからこそ面白い！そう感じられる子どもを育てたいのです。



3 「子どもスタートの教育」における評価の在り方

「子どもスタートの教育」においては、子どもの姿の中にその発揮状況をどのようにみとめるのか、という評価が必要不可欠になります。本園は、附属小学校と一貫して、子ども達が生活の中でどのように学び、どのような資質・能力を発揮し、育っているのかを、対話によるリフレクションによって深くみとめることを「評価」としています。「評価」なくして「子どもスタートの教育」実践は存在しないのです。

重要なのは、そのみとりを子どもにフィードバックすることで、子ども自身の中に「評価」の軸を生成し、自律的に学ぶ子どもを育成する「指導と評価の一体化」を心がけていることです。こうして自己評価の軸が生成された子ども達は、その軸によって友達と互いに認め合い「育ち合う集団」を育んでいきます。「〇〇ちゃんの今の言い方、嬉しかったよ」「〇〇ちゃん、何回も挑戦していて頑張ってるね」と、子ども同士で互いの育ちを認め合えることが、さらに一人ひとりの資質・能力の発揮レベルを高めていくのでしょうか。

4 「子どもスタートの教育」デザイン 1 | 教師の心もち

尊重

対等な「人」として
多様な能力や個性的な才能を尊重する



1・2年生の中でも自分の考えを伝えるよ (5歳児)

感情を伴う体験の多様性

子どもにとって
意味ある体験を意識する



苦手なおやつも頑張って食べたね！(異年齢活動)

委ねる—自己決定と責任

個が生かされる集団をつくる
—社会に参画する喜び



私は今日の活動をこのようにしたいですが、みなさんはどうですか？(5歳児)

探究する姿勢

「VUCA」—不安定さ 不確実性
複雑性 曖昧性—を楽しむ



ここに入ったらどこに行くんだろう。ワクワク！(3歳児)

語ること

フィードバックによる自己評価軸の生成



ドングリの形の違いに気づく友達に「いいおたずねですね。」(5歳児)

と語らないこと

非言語による共感性の育成



「・・・」(4歳児)

* 「4-2 | 実践をデザインするコツ」及び詳細は「研究紀要第32集」を参照されたい。